

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	郷土芸能普及事業
事業主体 (連絡先)	望月小唄保存会 佐久市望月237 柴平忠春
事業区分	(3) 教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,015,590 円 (うち支援金: 761,000 円)



事業内容

【作成した冊子 34 ページ】→

望月小唄は中山晋平の作曲で、90年の歴史を持ち、望月の特色ある自然や歴史が唄い込まれており、多くの人に親しまれてきたが、それを新住民や子どもたちにも広め、さらに全国に発信することを通して、地域の活性化に寄与するべく、この事業を企画した。

1、望月小唄誕生90周年記念「第1回望月小唄祭り」の開催 7月8日(日) 午前11時～午後5時
会場 望月駒の里ふれあいセンターホール
参加団体 22団体 参加者 約500人

2、望月小唄の歴史を綴った写真集と歌詞の解説を載せた冊子を発行 発行部数 1000部、配布先 望月小唄祭り参加者、町内文化団体、公共図書館、学校図書館等



【祭り当日の様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1、望月にある22の文化団体が準備段階から交流し、住民の絆が深まった。

2、小中学生を含めた世代間の交流が進み、地域の一体感が深まった。

3、望月小唄の歴史や内容が地域全体に広まった。

4、祭り当日の参加者は500人余。冊子は1000冊が配布され、佐久市全体、さらに東信地区全体に望月の文化を広めることができた。

【目標・ねらい】

- ①望月の文化を佐久市全体に広める。
- ②小中学生から高齢者まで世代間の交流を深める。
- ③地域の文化団体の交流を広げる。
- ④正調望月小唄の保存と普及

※自己評価【A】

【理由】

・若い世代が運営の中心となり、今後の地域の文化活動に新しい光が見えた。
・望月小唄の歴史が解明でき、それが住民に広まった。
・保存会の会員が増えた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

基盤ができたので、地域の文化交流をさらに発展させたい。望月小唄の歴史を通して、望月という地域の今後を考えるきっかけをつくり、作ったスライドの上映会などをさまざまな場で実施したい。望月小唄保存会の会員を増やし、正調の普及をすすめたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある